

講義ユニット名	眼科		所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	さかぐち ひろかず 坂口 裕和	所属	眼科	
講義ユニット コーディネーター	ひやま ともな 日山 知奈	所属	眼科	
授業方法	双方向講義方式。講義と演習を行い、問題に対するアセスメント方法を学ぶ。			
概 要	物が見える仕組みを理解する。個別の病態、症状、治療および全身疾患に関連した眼疾患や眼科救急疾患について学習する。			
講義ユニットの 到達目標	眼球と付属器の構造と機能を説明できる。 眼球運動のしくみを説明できる。 対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能を説明できる。 眼・視覚系に関する主要症候（視力障害、視野異常、色覚異常、眼球運動障害、眼脂・眼の充血、飛蚊症、眼痛）を列挙し、それらの発生機序、原因疾患と治療を説明できる。 基本的眼科検査（視力検査、視野検査、細隙灯顕微鏡検査、眼圧検査、眼底検査）を列挙し、それらの原理と適応を述べ、主要所見を解釈できる。 屈折異常（近視、遠視、乱視）と調節障害が説明できる。 感染性角結膜疾患の症候、診断と治療を説明できる。 白内障の病因、症候、診断と治療を説明できる。 緑内障の病因を列挙し、それらの発症機序、症候と治療を説明できる。 裂孔原性網膜剥離の症候、診断と治療を説明できる。 糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化を説明できる。 ぶどう膜炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。 視神経炎(症)・うっ血乳頭の病因、症候と診断を説明できる。 アルカリ、酸による化学損傷の症候と救急処置を説明できる。 網膜静脈閉塞症と動脈閉塞症の症候、診断と治療を説明できる。 網膜芽細胞腫の症候、診断と治療を説明できる。			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。オンライン参加の出席の確認方法は別途通知する。 3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。 体調不良等による本試験欠席においても、追試験は1回までとする。			
評価項目	到達目標の達成度 （理解と知識の応用力を含む）			
評価法	MCQ形式にて試験を行う。試験開始後30分以上の遅刻は受験を認めない。 本試験における合格基準は60点とする。			
予習・復習への アドバイス	次回講義のテーマに関連する教科書の該当ページを事前に読んでおくこと。疾患名や検査方法の専門用語をあらかじめ調べ、講義中に理解が深まるよう準備する。講義スライドや配布資料を見直し、疾患の病態生理や治療法を整理する。			
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 標準眼科学 監修：中澤 満 医学書院			